

コロナ下の女性への影響と課題に関する研究会（第6回）

コロナ禍で急増する女性の「実質的失業」と「支援からの孤立」 コロナによる働き方・暮らし方の変化と女性活躍 －概要版－

株式会社野村総合研究所
未来創発センター

上級コンサルタント 武田 佳奈

2021年1月25日



コロナ禍で急増する女性の「実質的失業」と「支援からの孤立」

コロナによる働き方・暮らし方の変化と女性活躍

コロナ禍で急増する女性の「実質的失業」と「支援からの孤立」

コロナで大幅にシフトが減少する「実質的失業者」のパート・アルバイト女性は、推計90.0万人（2020年12月時点）

- 2020年12月時点で、パート・アルバイト女性の4人に1人がコロナでシフトが減少
- シフト減パート・アルバイト女性の4割がコロナ前と比べて5割以上シフト減
- 「シフト5割以上減」かつ「休業手当なし」の人を「実質的失業者」と定義。2020年12月時点で、パート・アルバイト女性で「実質的失業者」は90.0万人にのぼると推計される（「実質的失業者」は、一般的に統計上の「休業者」にも「失業者」含まれない）

シフト減パート・アルバイト女性の6割は、自分が「休業手当」や「新型コロナウイルス感染症対応休業支援金・給付金」を受け取れることを知らない

- 6割近くが「シフト減の場合も休業手当支給の対象」のことを全く知らない
- 6割が「新型コロナウイルス感染症対応休業支援金・給付金」のことを全く知らない

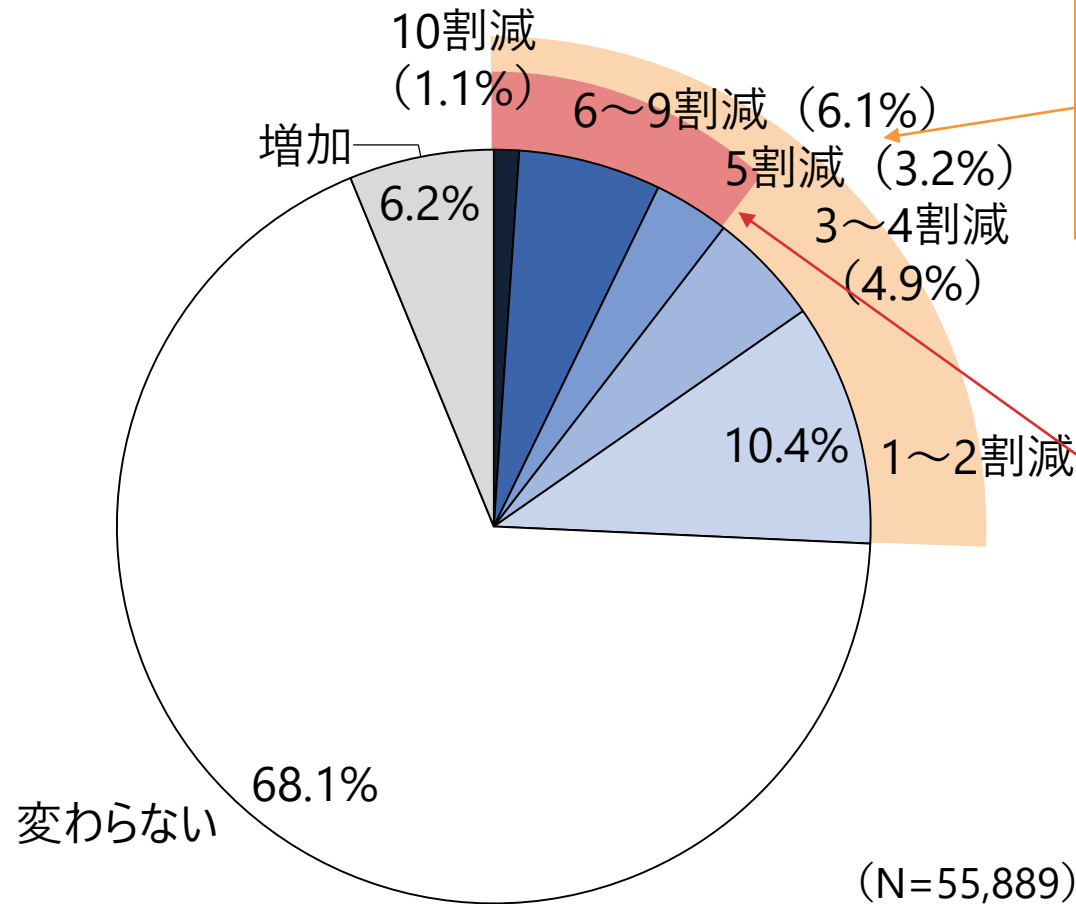
シフト減パート・アルバイト女性の5割以上が「暮らし向きが苦しいと感じること」が増え、6割強が「経済状況を理由に気持ちが落ち込むこと」が増えている

- 8割近くで世帯収入が減少（うち4人に1人が世帯収入半減）
- 6割が、食費の支出を減らしたり、貯蓄を削って生計維持を図っている
- コロナ前と比べて、「暮らし向きが苦しいと感じることが増えた（5割以上）」、「将来の家計への不安を感じるが増えた（7割強）」、「経済状況を理由とした気持ちの落ち込みを感じるが増えた（6割強）」
- 「金銭的理由で、この先生きていくのが難しいと感じること」が増えている人も2人に1人におよぶ

コロナ禍で増える「実質的失業者」

2020年12月時点で、パート・アルバイト女性の4人に1人が、コロナでシフトが減少 シフト減パート・アルバイト女性の4割が、コロナの影響を受ける前と比べて5割以上シフトが減少

コロナ以前と比べたパート・アルバイト先でのシフトの変化 【パート・アルバイト女性】



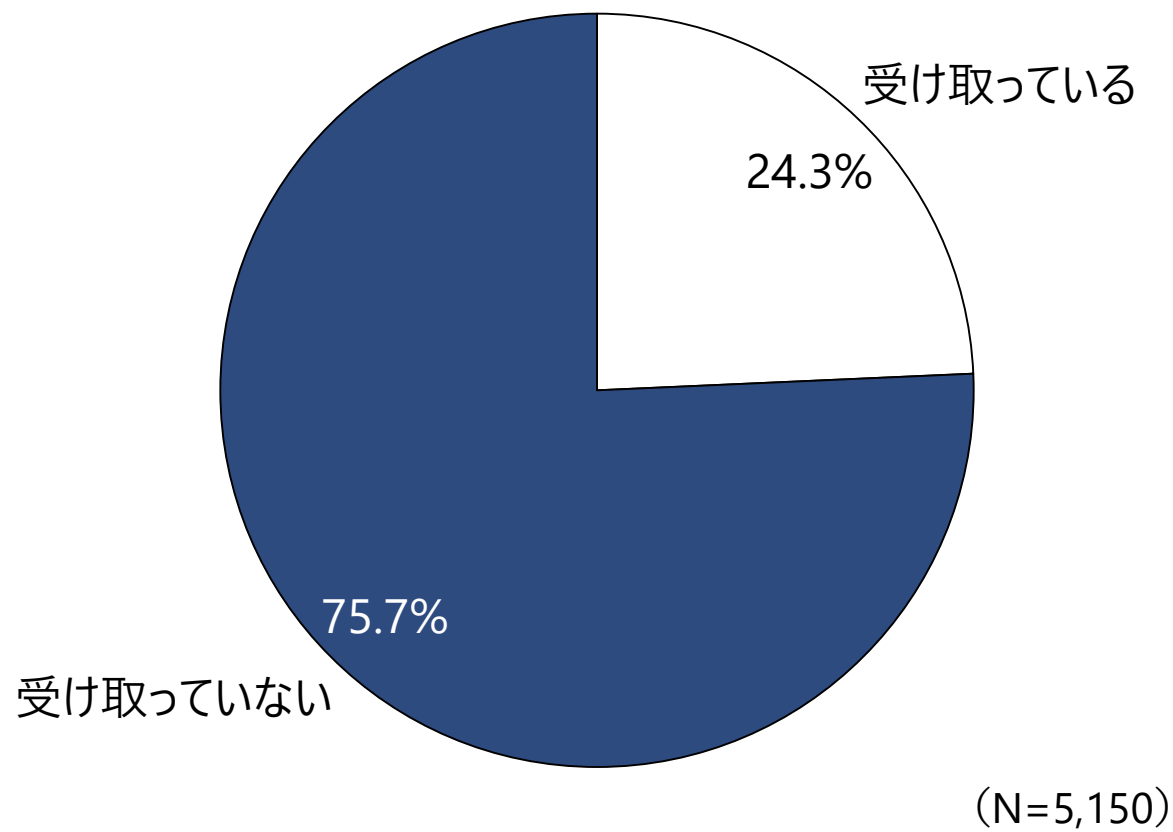
コロナの影響を受ける前と比べてシフトが減少している人【A】
全体の25.7%

シフトが減少している人【A】のうちシフトが5割減の人
40.6%
(全体の10.4%)

(N=55,889)

シフト減パート・アルバイト女性の2割しか休業手当を受け取っていない

休業手当の受け取り状況 【シフト減パート・アルバイト女性】



「実質的失業者」の定義と推計人数

「シフト5割以上減少」かつ「休業手当なし」の人を「実質的失業者」と定義

パート・アルバイト女性で「実質的失業者」は、2020年12月時点で90.0万人にのぼると推計される

パート・アルバイト女性の分類とそれぞれの出現率（推計）

雇用継続	シフト減少	休業手当等支給	出現率（推計）
あり	シフト 5割以上減少 (10.4%)	休業手当あり (25.9%)	2.7%
		休業手当なし (74.1%)	7.7%
	シフト 5割未満減少 (15.3%)	休業手当あり (23.6%)	3.6%
		休業手当なし (76.4%)	11.7%
	シフト 不変および増加 (74.3%)	—	74.3%

「シフト失業者」
とも言える

パート・アルバイト女性のうち
「5割以上シフトが減少」かつ「休業手当支給なし」
の人を
「実質的失業者」と定義

パート・アルバイト女性で「実質的失業者」
推計 90.0万人（注）

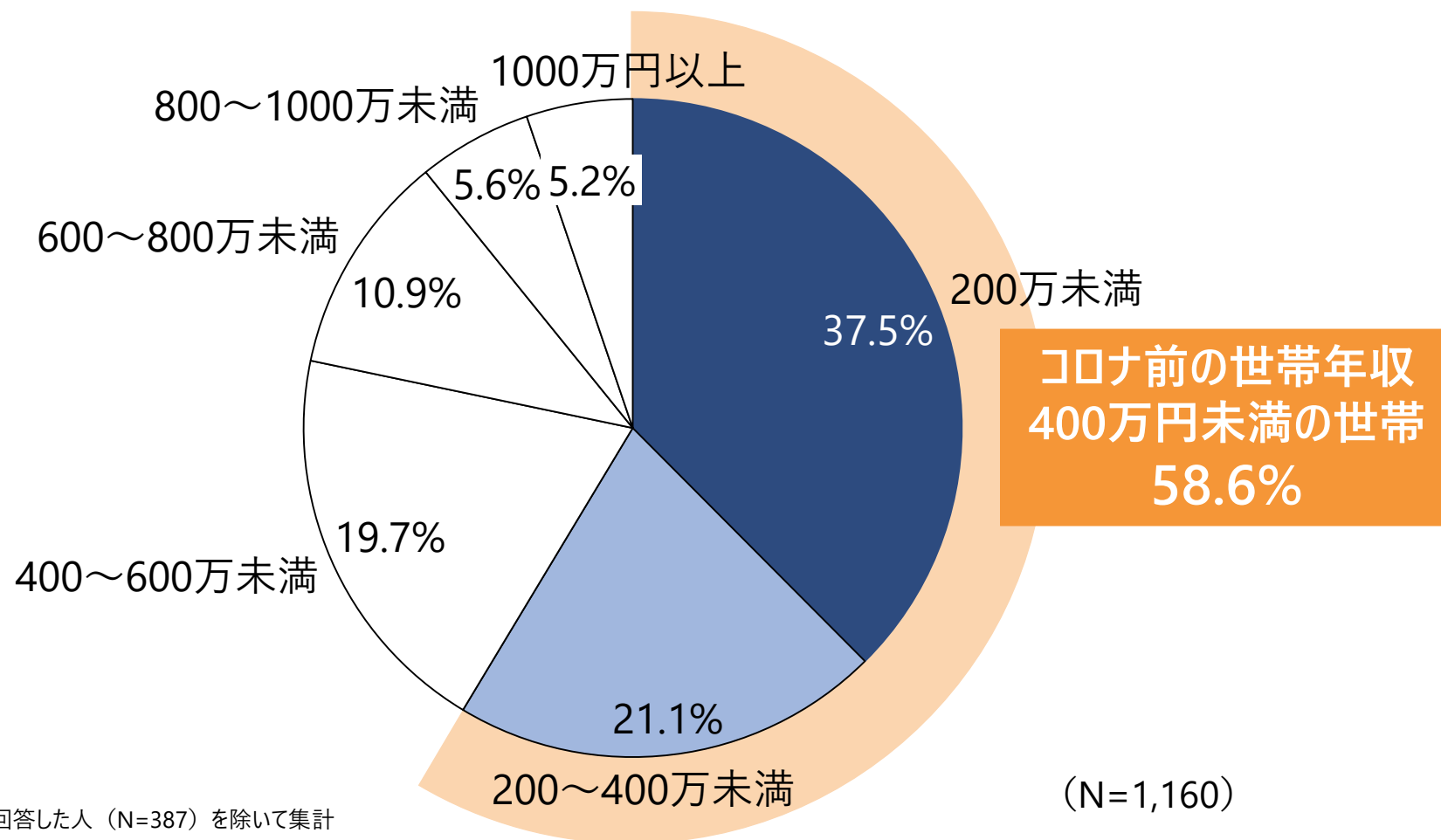
（注）「実質的失業者」の出現率に年齢による差がないと仮定し、20～59歳のパート・アルバイト女性を対象としたアンケート調査より推計した出現率と全てのパート・アルバイト女性（総務省「労働力調査（2020年11月）」より1,163万人）を使用して推計した

コロナの影響を受ける前の世帯年収

「実質的失業者」であるパート・アルバイト女性の6割が、世帯年収400万円未満の世帯

コロナの影響を受ける前の世帯年収（2019年の世帯年収）

【シフト減パート・アルバイト女性のうち「実質的失業者」】



(注) 「分からない／答えたくない」と回答した人 (N=387) を除いて集計

(出所) NRI「コロナによる休業・シフト減のパート・アルバイト女性の実態に関する調査」(2020年12月)

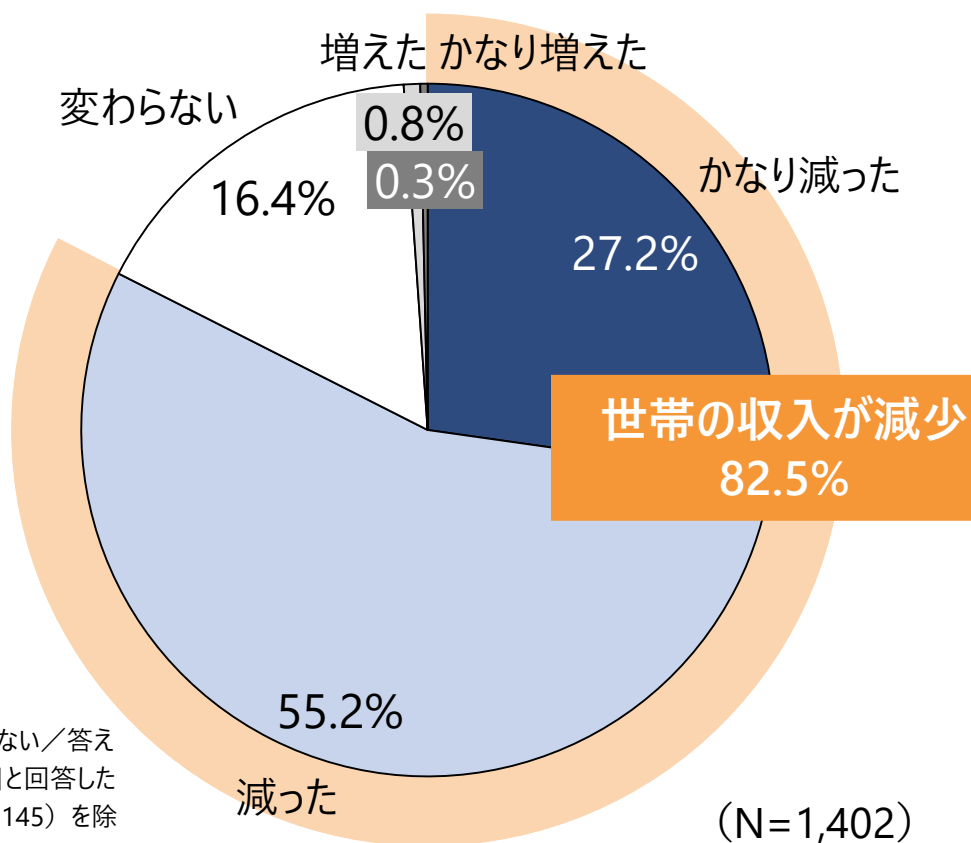
世帯収入（月額）の変化

「実質的失業者」であるパート・アルバイト女性の8割以上で世帯収入が減少（うち5割近くが世帯収入半減）

コロナ以前と比べて世帯の収入（月額）の変化

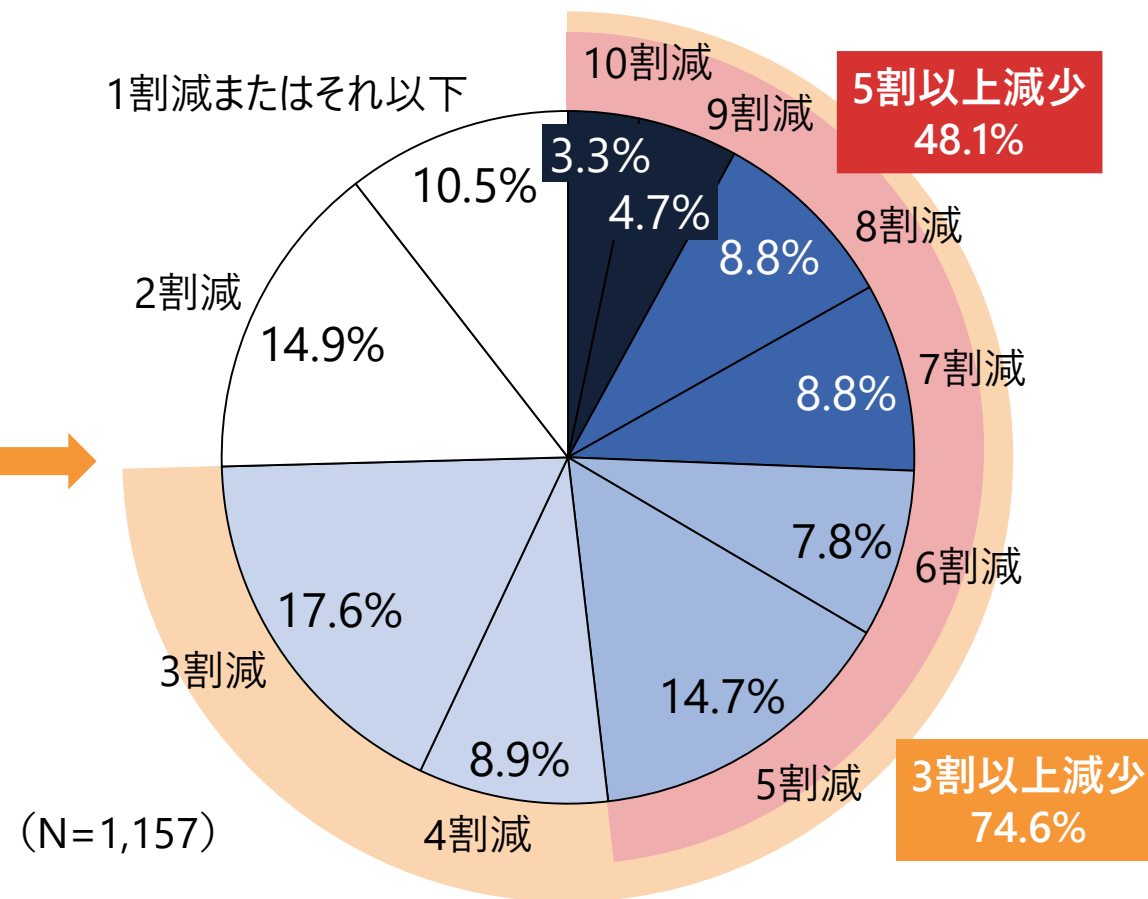
【シフト減パート・アルバイト女性のうち「実質的失業者」】

世帯の収入



(注) 「分からない／答えたくない」と回答した人 (N=145) を除いて集計

世帯の収入の減少割合 【世帯収入減少の人のみ】



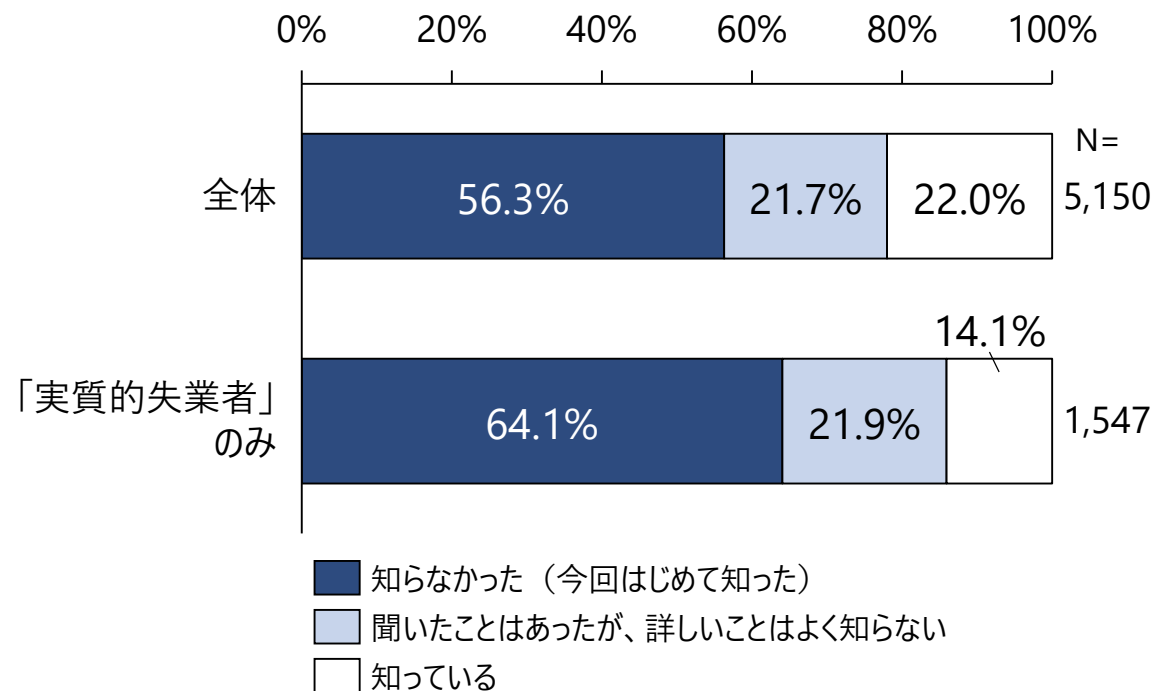
コロナによる収入減世帯向け支援策の認知・活用状況

休業手当に関する認知状況

シフト減パート・アルバイト女性の6割は、自分が「休業手当」や「新型コロナウイルス感染症対応休業支援金・給付金」を受け取れることを知らない

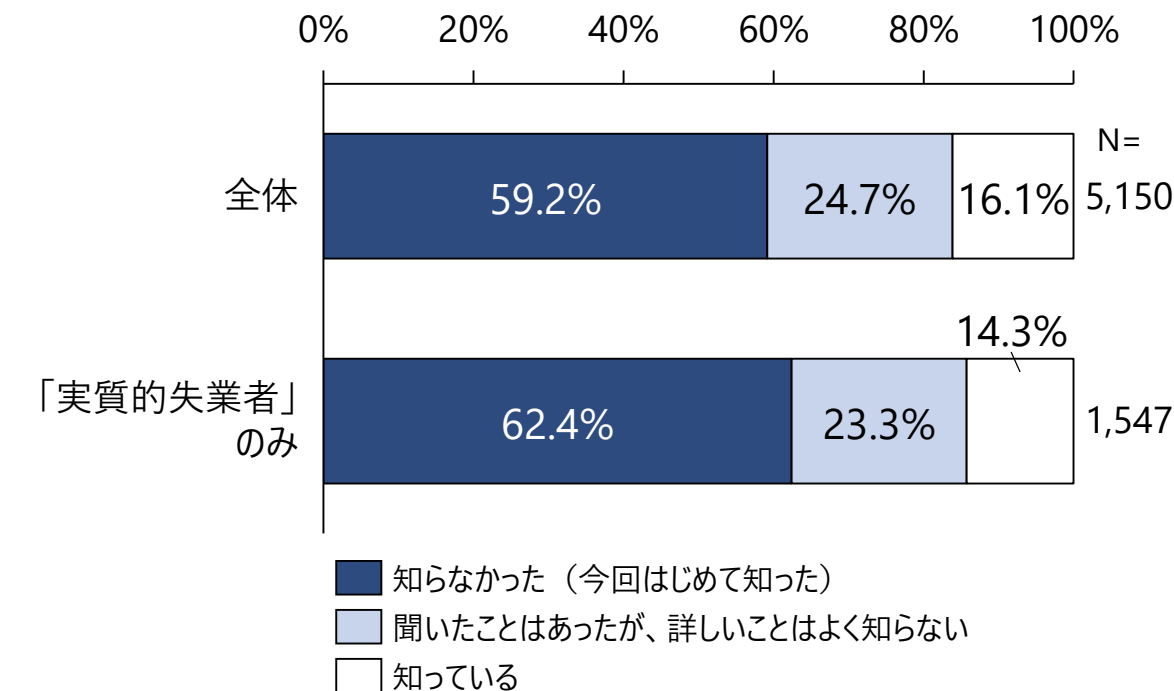
休業手当の支給対象に関する認知状況 【シフト減パート・アルバイト女性】

1日単位の休業だけでなく、シフト時間を短縮するような短時間休業であっても、休業手当を受け取ることができること



「新型コロナウイルス感染症対応休業支援金・給付金」に関する認知状況 【シフト減パート・アルバイト女性】

休業手当を受け取れない場合、労働者本人から申請することができる「新型コロナウイルス感染症対応休業支援金・給付金」のこと

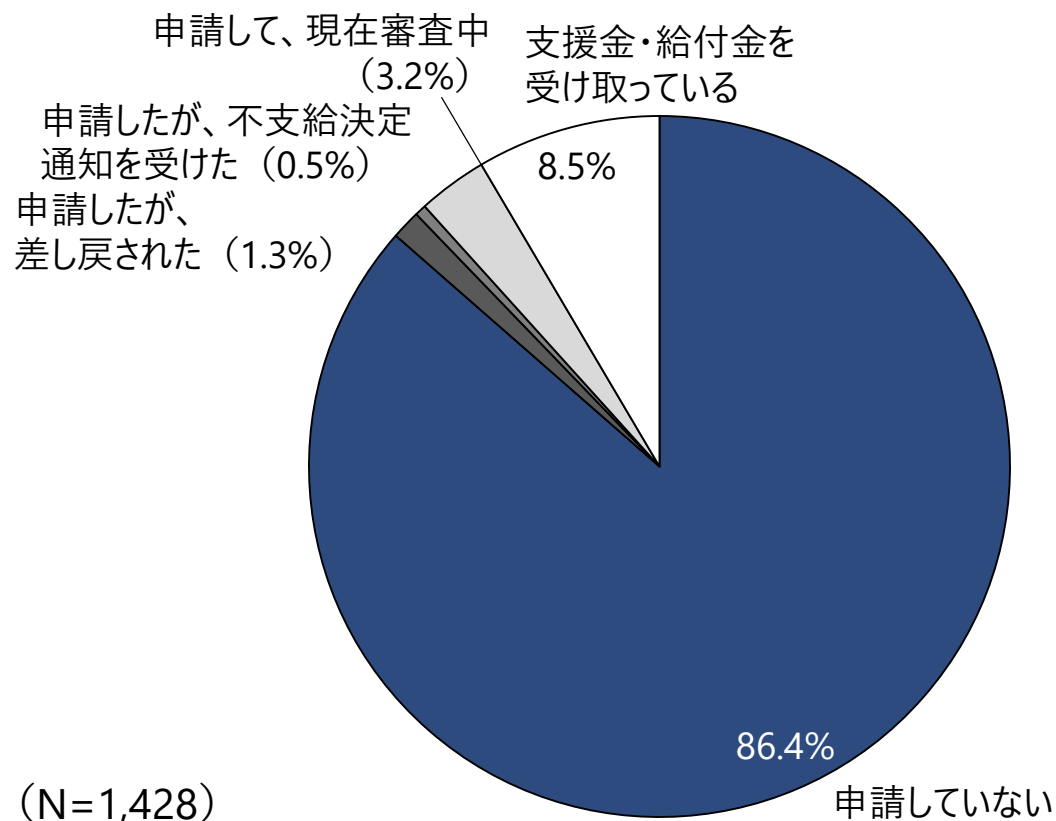


「新型コロナウイルス感染症対応休業支援金・給付金」の申請状況・申請しない理由

「新型コロナウイルス感染症対応休業支援金・給付金」のことを知っている人でも 9割近くは「申請していない」
 「休業支援金」を知っているのに申請していない理由は「自分が対象になるのか分からなかった」が7割近い

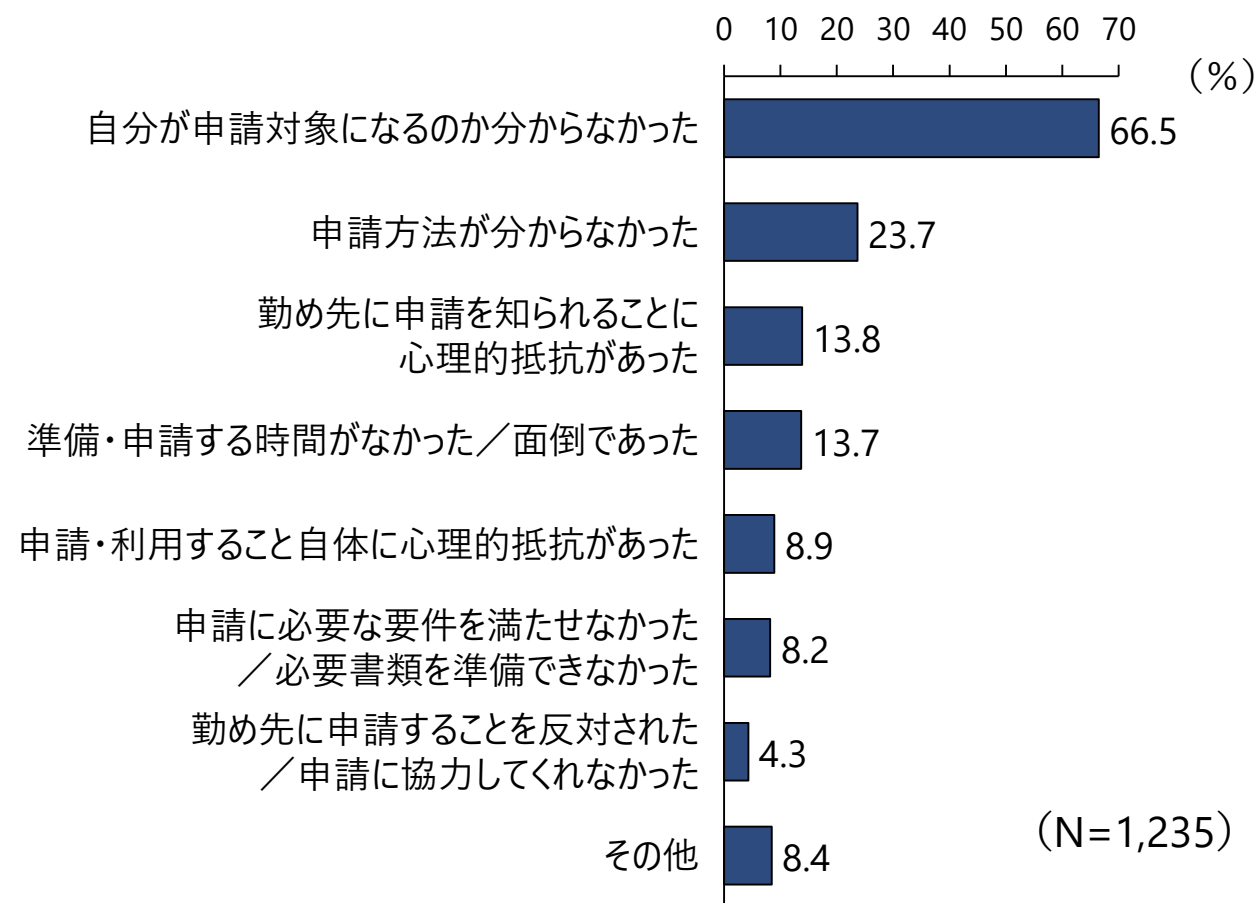
「新型コロナウイルス感染症対応休業支援金・給付金」の申請・受給状況

【シフト減パート・アルバイト女性（休業手当なし）のうち、「休業支援金」を知っている女性】



「休業支援金・給付金」を知っているのに申請していない理由【複数回答】

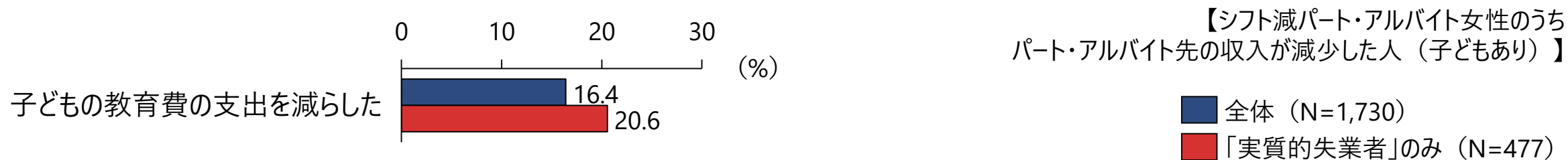
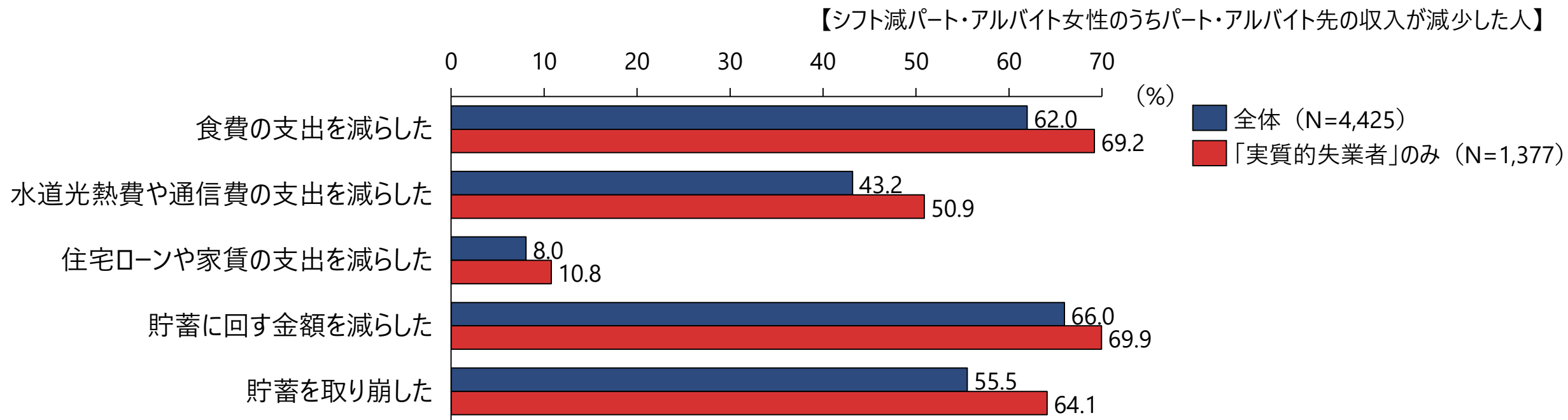
【シフト減パート・アルバイト女性（休業手当なし）のうち、「休業支援金」を知っているのに申請していない女性】



コロナによるシフト減が家計や暮らし向きを意識にもたらした影響

シフト減パート・アルバイト女性の6割が、食費の支出を減らしたり貯蓄を削って生活維持を図っている 「実質的失業者」では、支出や貯蓄を削っている人の割合がより高い

パート・アルバイト先からの収入が減ったことによる家計への影響



(注) 「あてはまる」と「ややあてはまる」の合計

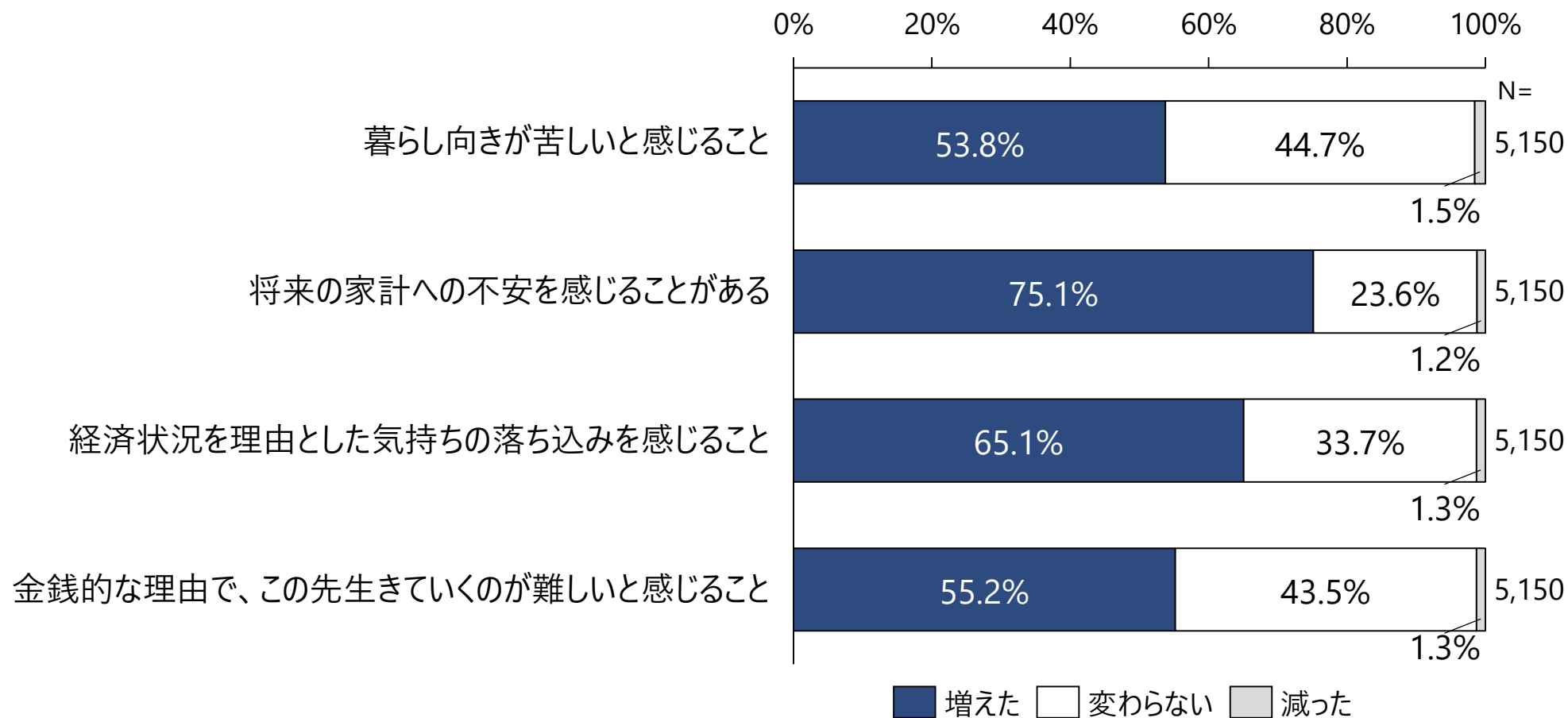
(出所) NRI「コロナによる休業・シフト減のパート・アルバイト女性の実態に関する調査」(2020年12月)

コロナ以前と比べた気持ちの変化

5割以上で「暮らし向きが苦しいと感じること」、7割強で「将来の家計への不安を感じること」が増えている
6割強で「経済状況を理由とした気持ちの落ち込みを感じること」が増えている

コロナ以前と比べた際の以下のことの増減

【シフト減パート・アルバイト女性】

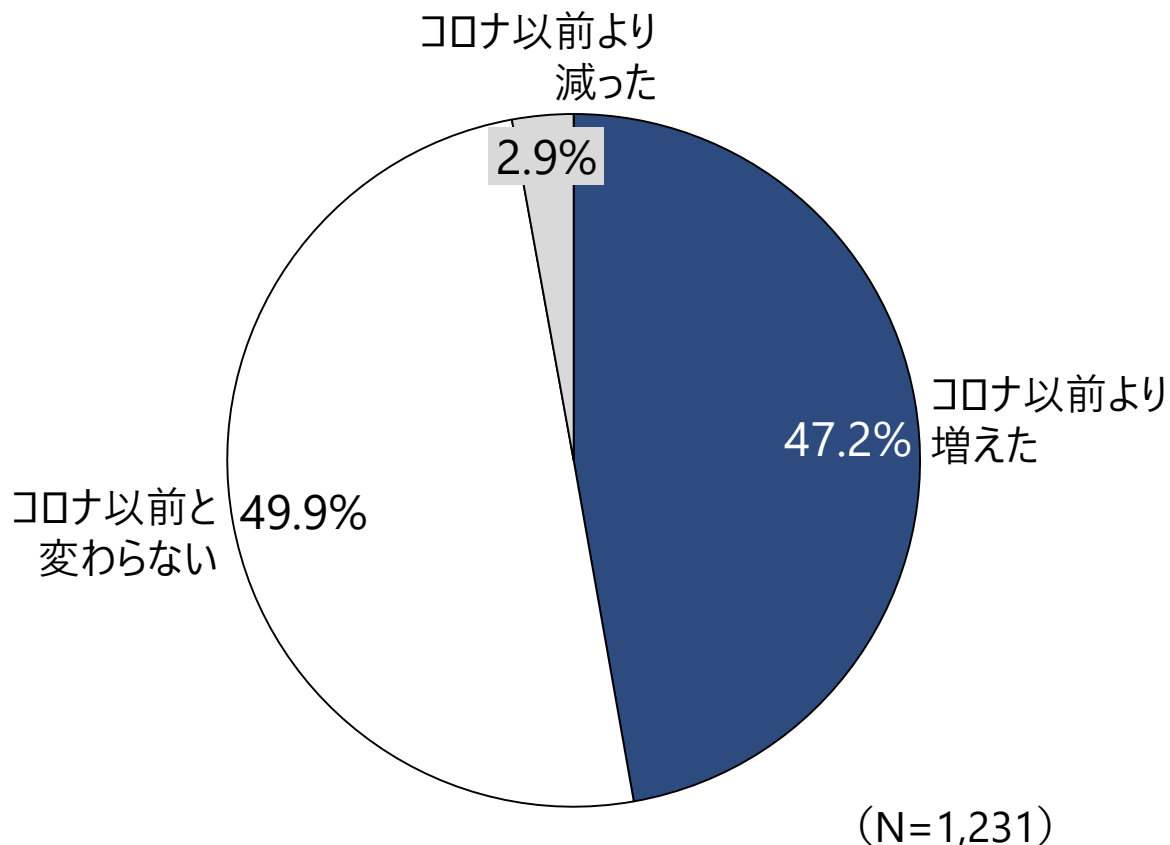


コロナ以前と比べた気持ちの変化

シフト減パート・アルバイト女性のおよそ2人に1人で、 結婚や希望する人数の子どもを持つことが難しく感じるが増えた

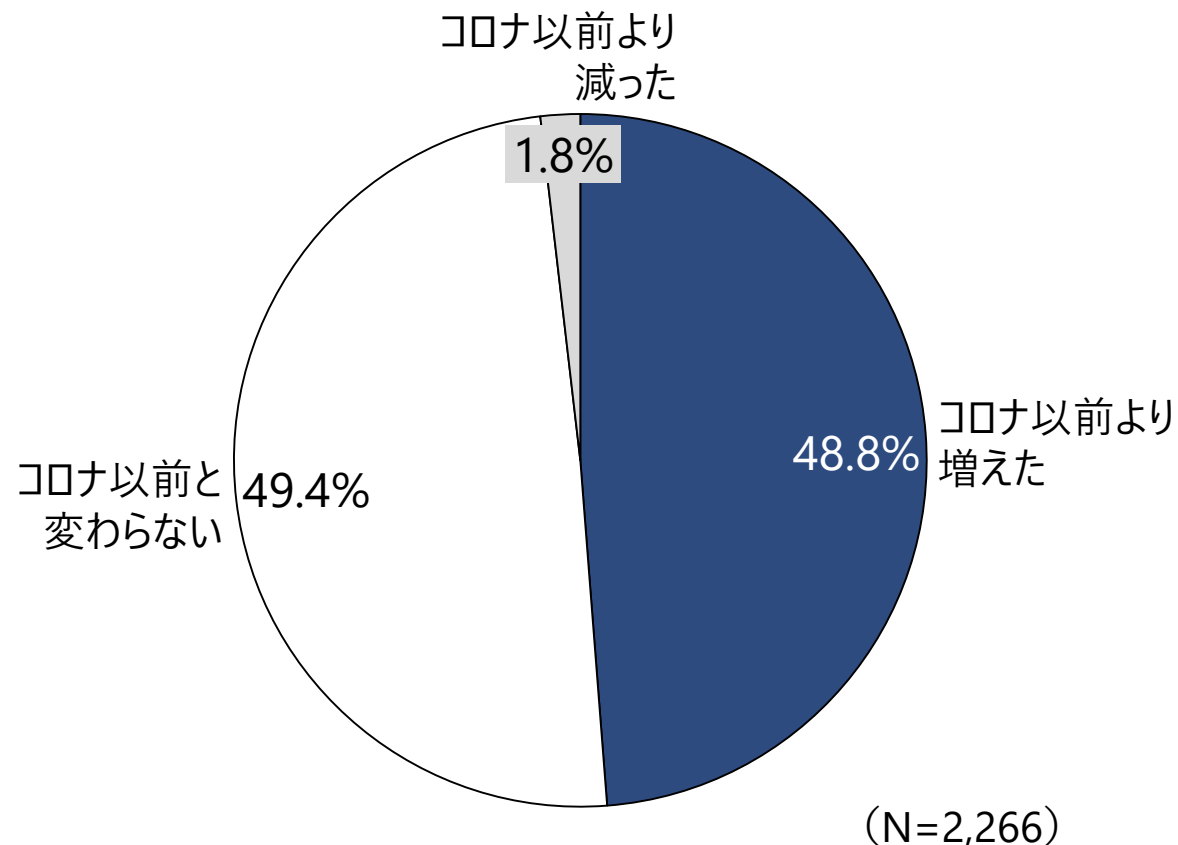
「現在の経済状況だと、結婚することが難しく感じること」の増減

【シフト減パート・アルバイト女性（配偶者なしの20代・30代）】



「現在の経済状況だと、希望する人数の子どもを持つことが難しく感じること」の増減

【シフト減パート・アルバイト女性（20代・30代）】



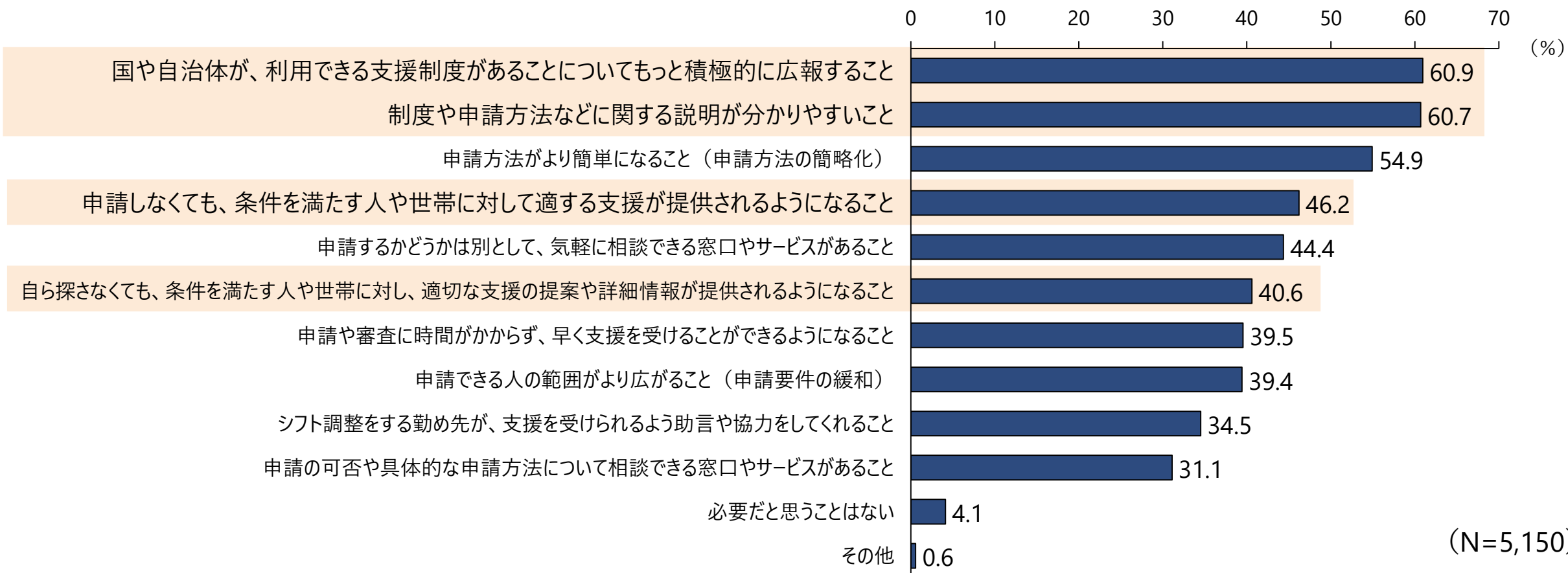
今後求められる対策

支援制度の利用促進に求められること

6割が「国や自治体による積極的な広報」や「説明や申請方法が分かりやすくなること」が必要と回答
「申請せずとも条件を満たす世帯に支援が提供されること」が必要とする人も5割近くにのぼる

コロナで収入減の人を対象とした国や自治体の支援制度の利用促進につながる対策 【複数回答】

【シフト減パート・アルバイト女性】



(N=5,150)

パート・アルバイト女性の「実質的失業者」を加味すると、実質的な失業率は5.2%にのぼる

「実質的失業者」を加味して推計した実質的な失業率

NRI推計 労働力調査における「完全失業者数（原数値）」を用いて推計	完全失業者数 + 実質的失業者数			実質的な失業率 （女性）
	（女性）	完全失業者数 （女性）	実質的失業者数 （パート・アルバイト 女性）	
	【NRI推計】	【労働力調査2020年11月分結果（原数値）】	【NRI推計】	【NRI推計】
	162万人	72万人	90万人	5.2%

【参考】

労働力調査	完全失業者数 （女性）	完全失業率 （女性）	【参考】 完全失業率 （男性）
2020年11月分結果 （原数値）	72万人	2.3%	3.2%

国・自治体は、実態に即した支援パッケージの迅速な提供を通じ、
実質的失業者を含め「社会・行政が寄添い、支える」とのメッセージを発信すべき

現状の課題

コロナ禍で急増する女性の「実質的失業」と「支援からの孤立」

コロナによるシフト減で収入が大幅に減少しているものの休業手当等公的支援が受けることができず、
経済的に困窮し、精神的にも厳しい状況に直面しているパート・アルバイト女性が少なくない（推計90万人）

求められる対策

- 政府広報やメディア等経由で、「非正規労働者やシフトの部分的減少であっても、休業手当や休業支援金を受け取れる」ことを広く周知する
- コロナ禍を機にパート・アルバイト先からの収入が減少したことで生活が困窮している層（＝これまでは必ずしも支援を必要としていなかった層）を対象とした相談窓口の設置
- 実質的失業者の実態を踏まえた経済支援策の検討（応急的な貸付・給付等の拡充・追加実施等）
- 実質的失業者を含む、休業状態が続く者に対する他職場での就業再開支援（一時的・恒久的）

コロナ禍で急増する女性の「実質的失業」と「支援からの孤立」

コロナによる働き方・暮らし方の変化と女性活躍

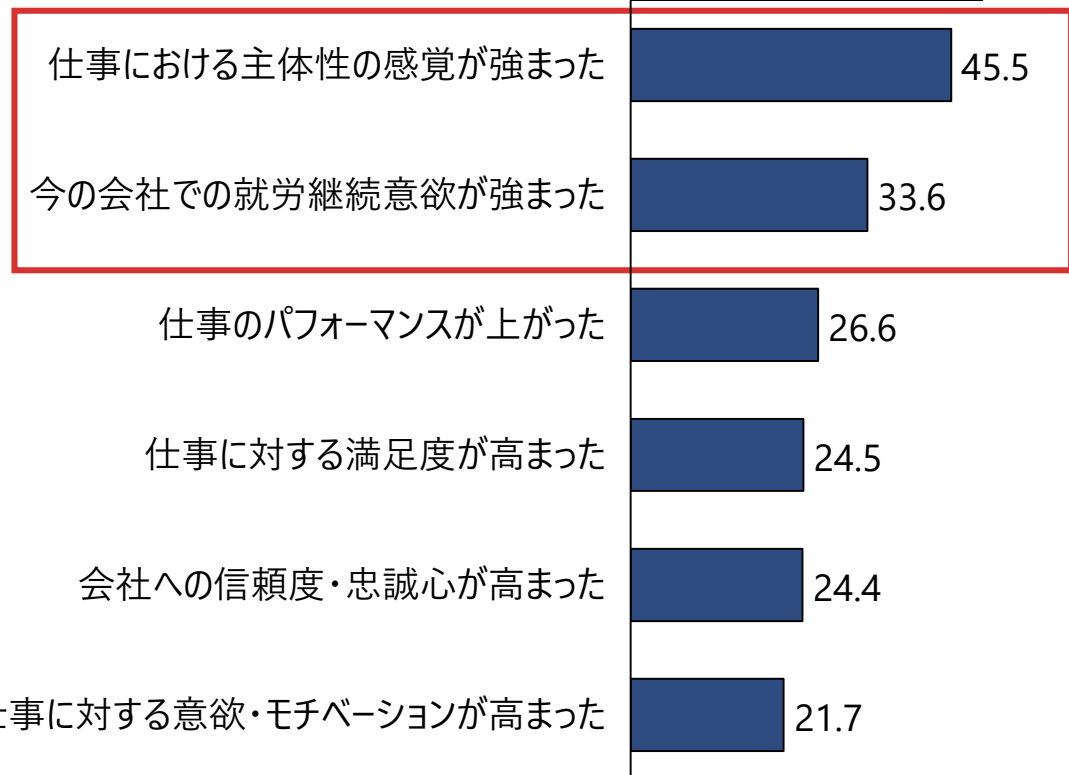
仕事面に加えて、暮らし面でも、在宅勤務によって「家事や育児などにかかる時間の増加」を実感した人が6割を超え、「暮らしの満足度向上」を実感した人も約5割

以前の出社時と比べて、在宅勤務をして思ったこと（仕事面）

N=3,708

【在宅勤務者（7月）※※】

0 10 20 30 40 50 (%)



以前の出社時と比べて、在宅勤務をして思ったこと（暮らし面）

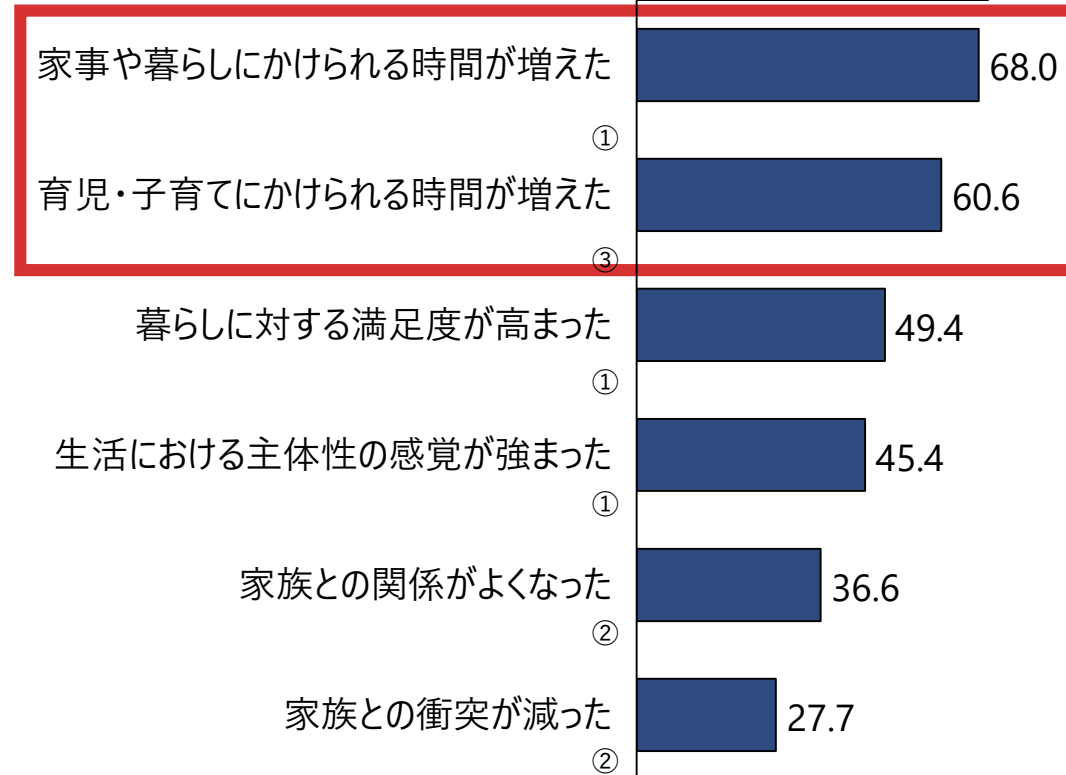
①N=3,708（対象者全員）

【在宅勤務者（7月）※※】

②N=2,681（同居者が1人以上いる人）

③N=1,415（同居する子どもが1人以上いる人）

0 10 20 30 40 50 60 70 (%)



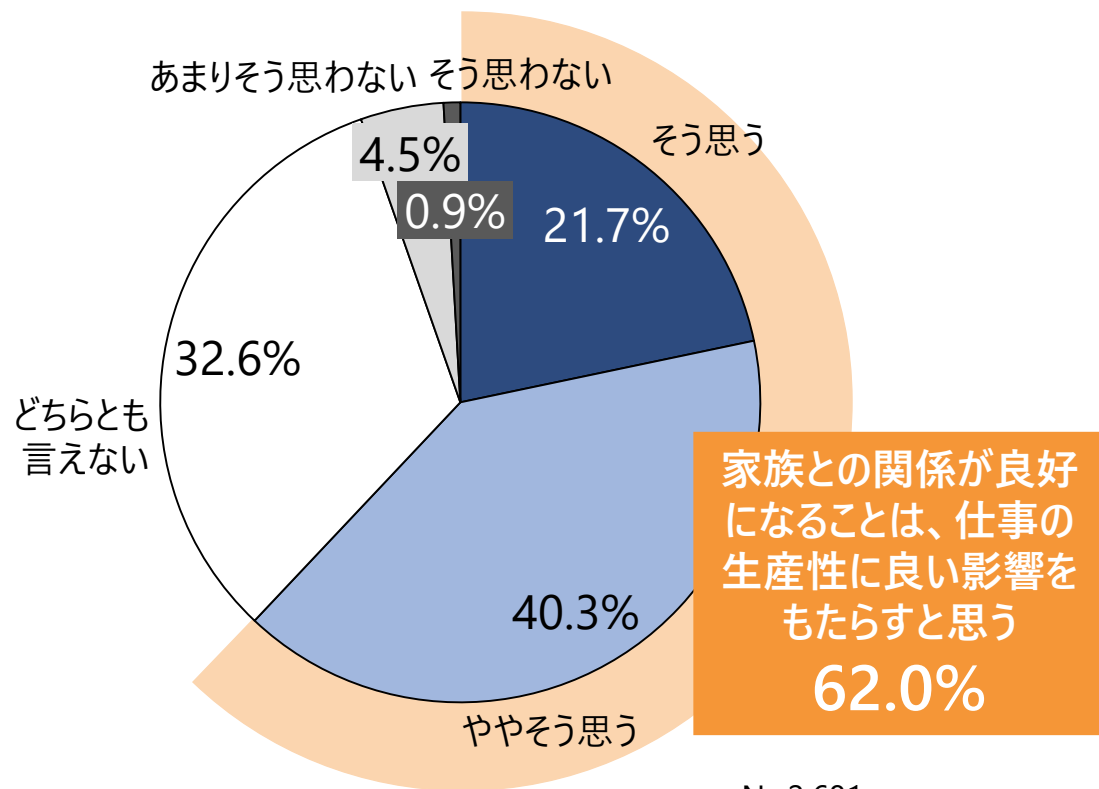
注) 「そう思う」と「ややそう思う」の合計

出所) NRI「在宅勤務活用による働き方・暮らし方の変化に関する調査（本調査）」（2020年7月）

「家族との関係が良好になること」や「生活満足度が高くなること」が、仕事の生産性に良い影響をもたらすと考える働き手はそれぞれ6割を超える

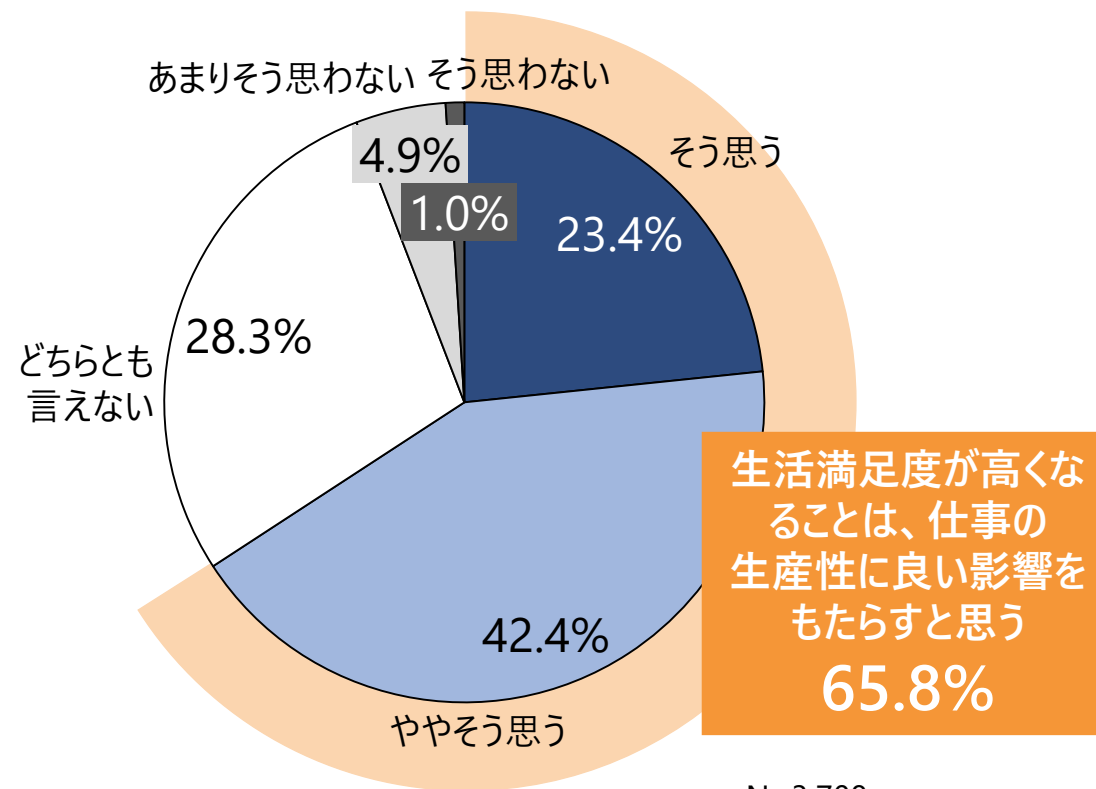
家族との関係が良好になることは、
あなたの仕事の生産性に良い影響をもたらすと思うか

【同居する家族が1人以上いる在宅勤務者（7月）※※】



生活満足度が高くなることは、
あなたの仕事の生産性に良い影響をもたらすと思うか

【在宅勤務者（7月）※※】



今後の女性活躍の鍵を握る「フルキャリア」とその活躍を引き出すマネジメント

暮らしや子育てにも、仕事やキャリアにも、意欲的に取り組みたいと考える「フルキャリア」が増えている
「フルキャリア」の活躍を最大限に引き出すマネジメントの鍵は、「期待」、「共有」、「機会付与」の3つの「き」

働く女性の2人に1人
(50.3%)

キャリア重視の
「バリキャリア」

極力家庭やプライベートの都合を仕事の制約にせず、仕事での成果やキャリアアップを追求したい

暮らしや子育てにも
仕事やキャリアにも
意欲的に取り組みたい
「フルキャリア」(注)

二者択一ではなく、各々に可能な限り意欲的に取り組みたいと考える

ライフ重視の
「ゆるキャリア」

家庭やプライベートの時間確保を優先し、それが許す範囲で仕事することを望む



(注) “フルキャリア”は、2015年7月にNRIが発表した新たな価値観、行動特性を持つ働き手の総称

「フルキャリア」の活躍を最大限に引き出す「フルキャリアマネジメント」- 3つの「き」-

期待

“仕事”での成長・貢献を期待する

- 子どもが小さい、復職直後だからといって、期待することを先送り・躊躇せず、フルキャリア本人が、仕事を通じて確実に成長し、成果をあげて組織に貢献すること期待する
- 期待していることを伝え、本人にその自覚を持たせる

共有

仕事への意欲と取り巻く家庭の状況の共有

- 働き方で意欲や状況を判断せず、「仕事やキャリアへの意欲の本音」と「働く本人を取り巻く家庭の状況」を本人に確認し、具体的に把握する

機会付与

成果につながる積極的な機会付与

- 成果を出せる環境が整ってから「機会付与」するのではなく、「機会付与」をすることで成果を出せる環境を早期に作り出す

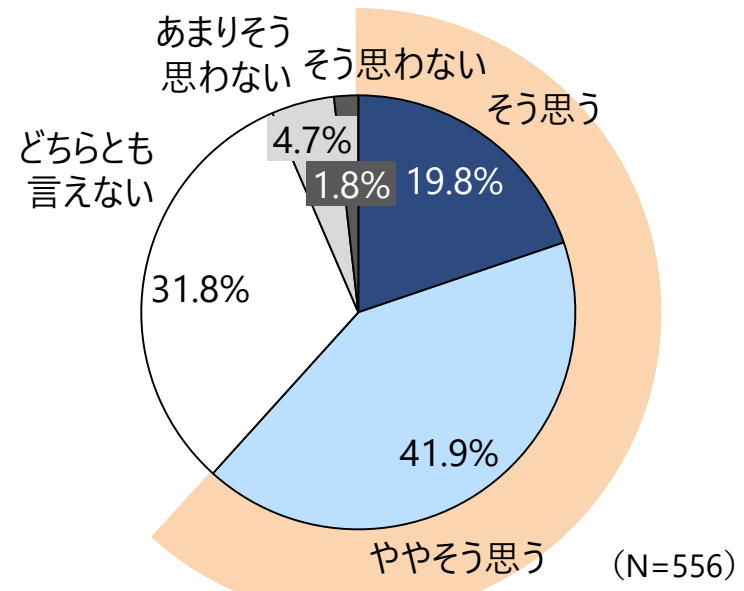
リモートワークの活用促進によって起こる「マネジメントの変化」

在宅勤務で働く部下に対し、マネジャーの約6割が「仕事への意欲や考えをより把握する必要がある」と感じている 「家庭の状況をより把握する必要がある」とするマネジャーも半数に及ぶ

- フルキャリア
活躍促進の
3つのき**
- 期待**
“仕事”での
成長・貢献
を期待する
- 共有**
仕事への意欲と
取り巻く家庭の
状況の共有
- 機会付与**
成果につながる
積極的な
機会付与

在宅勤務で働く部下に対して、
仕事への意欲や考えを把握する必要性が高まると思うか

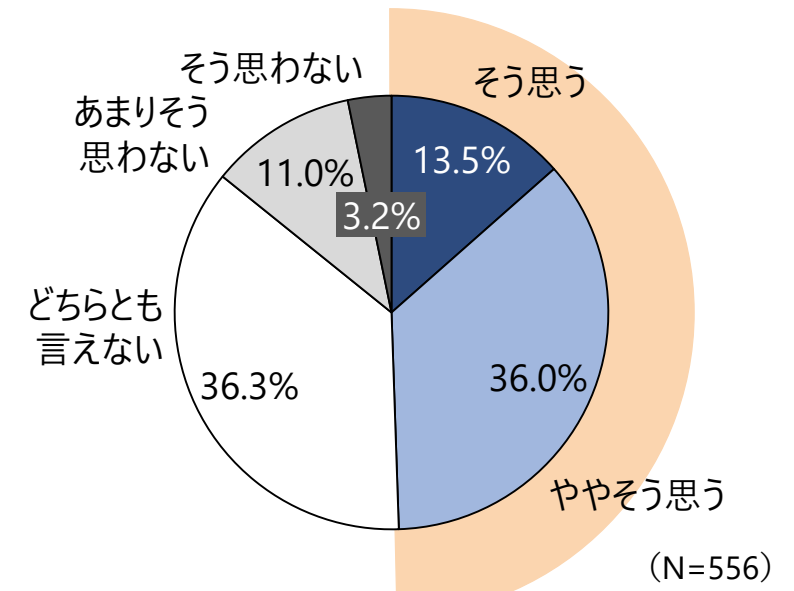
【部長・課長職にある在宅勤務者（7月）※※】



在宅勤務で働く部下に対して、
仕事への意欲や考えを把握する
必要性が高まる
61.7%

在宅勤務で働く部下に対して、
家庭の状況を把握する必要性が高まると思うか

【部長・課長職にある在宅勤務者（7月）※※】



在宅勤務で働く部下に対して、
家庭の状況を把握する
必要性が高まる
49.5%

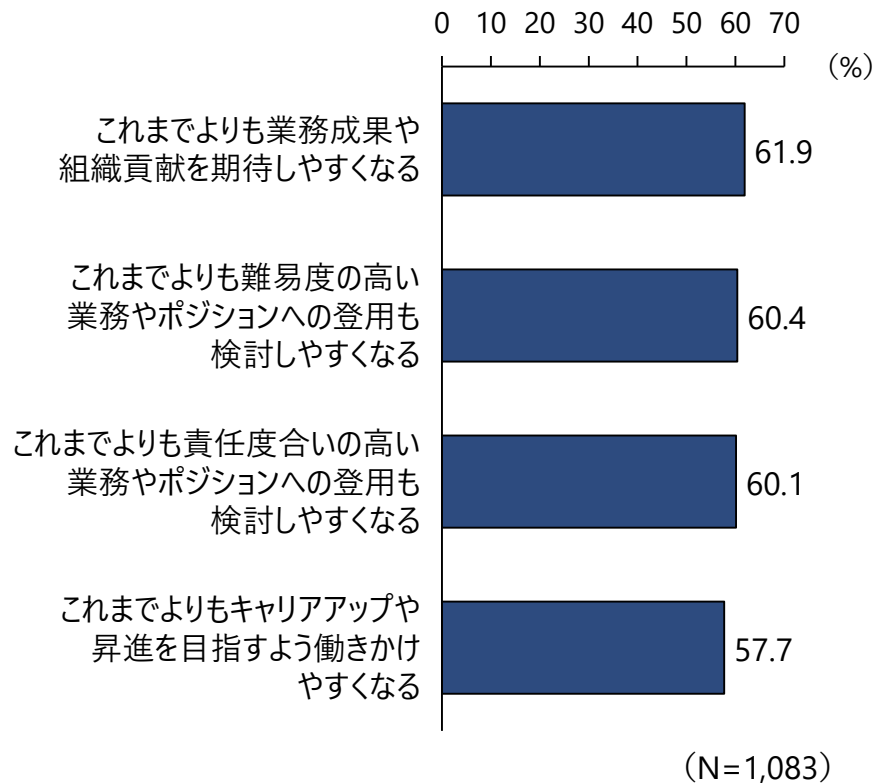
(出所) NRI「在宅勤務活用による働き方・暮らし方の変化に関する調査」(2020年7月)

在宅勤務等を活用が定着することで、子育てしながら働く女性の部下に、これまでよりも「期待しやすくなる」、「登用を検討しやすくなる」と回答したマネジャーも6割に及んだ

- フルキャリア
活躍促進の
3つのき**
- 期待**
“仕事”での
成長・貢献
を期待する
- 共有**
仕事への意欲と
取り巻く家庭の
状況の共有
- 機会付与**
成果につながる
積極的な
機会付与

子育てしながら働く女性の部下が在宅勤務等を活用しながら仕事に従事する場合に以前よりもしやすくなると思うこと

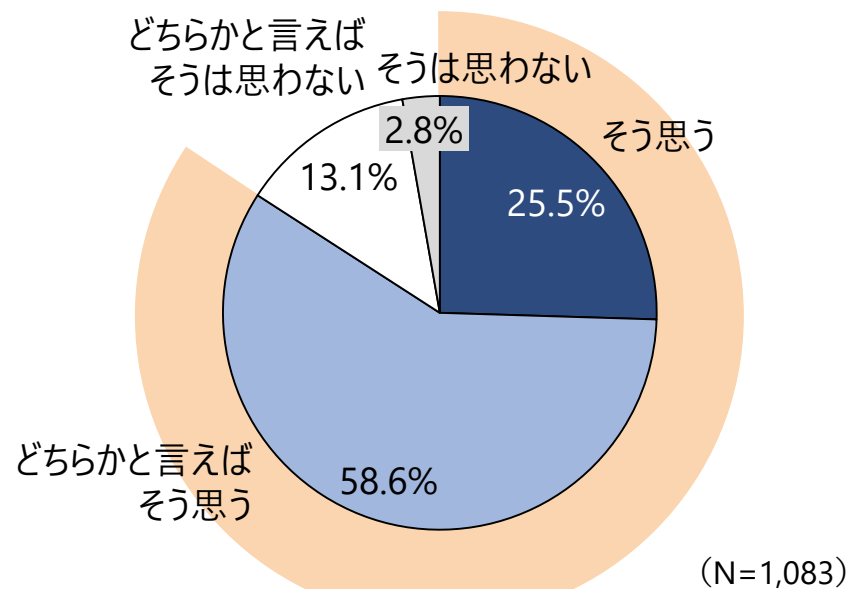
【小学生以下の子どもがいる女性の部下を持つ男性課長職】



(注) 「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」の合計

在宅勤務等の働き方の定着は、子育てしながら働く女性の部下の活躍を引き出し組織の成長につなげる上で有効だと思うか

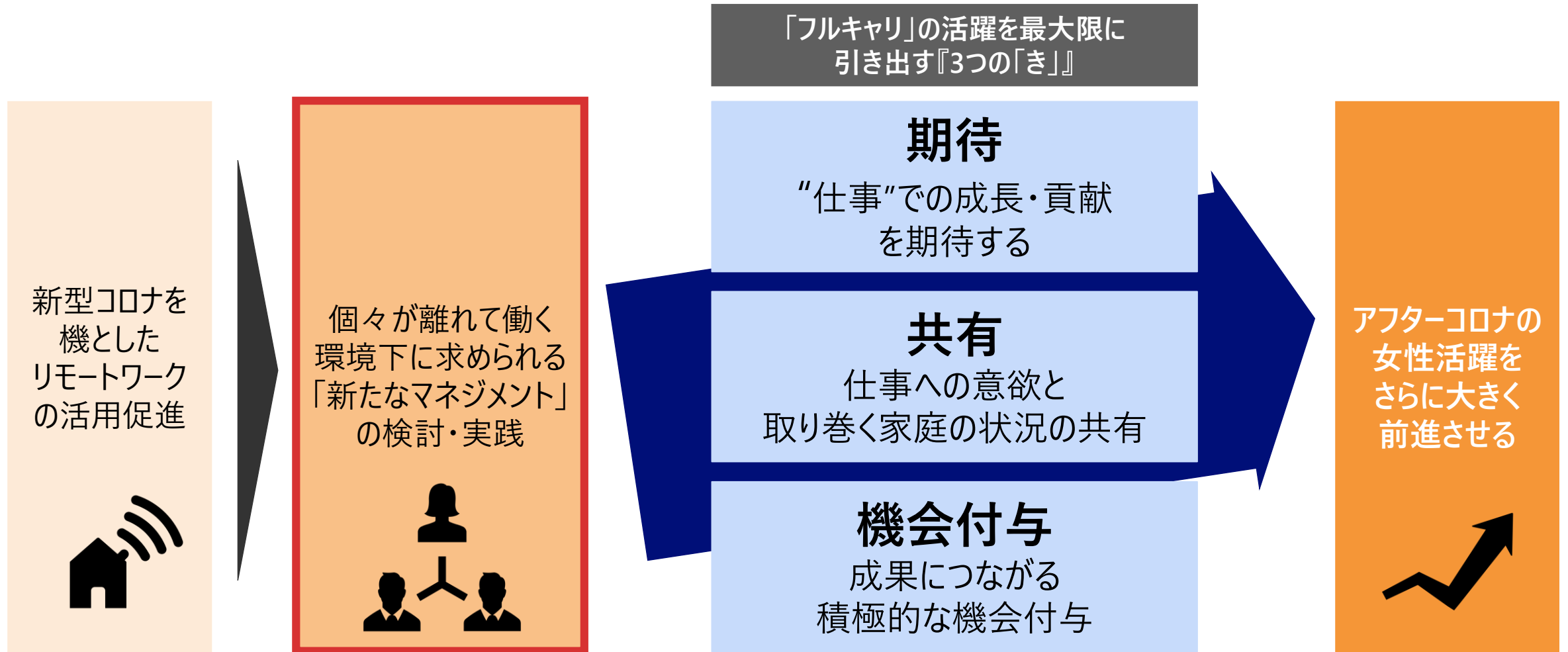
【小学生以下の子どもがいる女性の部下を持つ男性管理職】



在宅勤務等の働き方が定着することは、子育てしながら働く女性の部下の活躍を引き出し組織の成長につなげる上で有効だ
84.1%

新しい働き方の定着が女性活躍推進をさらに前進させる理由

個々が離れて働く環境下に求められるマネジメントは、「フルキャリア」活躍の鍵を握る『3つの「き」』の実行を促進
女性活躍推進をさらに大きく前進させるチャンス



■ 本日本話させていただいた内容についての詳細なレポートは、下記より御覧いただけます。

■ **コロナ禍で急増する女性の「実質的休業」と「支援からの孤立」**

～コロナでシフト減のパート・アルバイト女性を対象とした調査結果の報告～

<https://www.nri.com/jp/knowledge/report/1st/2021/cc/mediaforum/forum302>

■ **新型コロナで休業中のパート・アルバイト女性は、7割が休業手当の受け取りなし**

～休業中の正社員は半数近くが休業手当よりも就業再開を希望～

<https://www.nri.com/jp/knowledge/report/1st/2020/cc/mediaforum/forum299>

■ **アフターコロナの働き方改革と女性活躍推進に向けて**

～在宅勤務経験者とマネジャーの意識の変化からの展望～

<https://www.nri.com/jp/knowledge/report/1st/2020/cc/mediaforum/forum295>



Share the Next Values!